



天 氣 豫 報
今晩も明日も北西の風晴

天 賦 羅 考

大井川幸隆

此説は前者よりも首肯せらるるものがあるけれども、天賦が浪人を意味するから、天賦から渡来したといふことが、天賦になつたといふだけで附合しなかつたといふように思ふ。後者の説の如きは、江戸時代の戯作者田代文政あたりに引つ張りに出たものか、さういふくれば、京傳の次第京出の配録に依拠しての言ひ分がと考へると、弘化三年丙午の孟夏頃の京山老人の著に『御珠の糸巻』がある。右の著の『天賦』の項に、

「青」のてがらに
大木 信夫
聖職に就き愛されし愛馬よ
今朝はしんみり 腕のな
今夜袂別なくんちやな
かて
今夜袂別なくんちやな
かて
今夜袂別なくんちやな
かて

恩 讐 無 道

久我 莊多郎

「な、なんですか？」
大仰に愕く男は、風塵
塵の商人に見え、俗
に金銀眼といふ窪んだ目を
持つてゐて、その目に、時
折兎も、近き光りを加へん
ところ、たゞ者ではない、
皮膚の色は銅に近し、四十
からみの精悍さだ、
それ、お樂には上手に
出て、



「江戸の子ぢやないか」
鏡の聲だ。
「江戸の子の身であつて、大
他の音が怒いぢや、人に嘘
はれるよ。それ、たゞの
喧嘩ぢやねえ、お前、
さつき言つてたわ？ さうさ
只の喧嘩ぢやない。あたし
たちを生んでくれた江戸を
辱らねえか、お前、その大
事な喧嘩なんだ」

天賦の初年、大阪にて家
僕二三人も仕ふ商人の次
男。至情の藝妓をつゝ、
江戸へ逃げ来り、余は件
を利助とて、朝夕出入り
けるに、或時亡兄(京傳
のことである)の遺書に、
「云々やう、江戸にて、
前掲掲げとて辻賣りあり
どいまだ魚肉のある物に
見えず、うまものな、
ば、是を奪見世の途程に
せばやと思ふ、先生い
ん。兄曰、夫は、思ひ
のさなり、まづ試むべし
て俄に刺し殺せり、ト
如何にも美味なれば、
や、歸るべし、脚め
るに、利助曰、是を奪見
世に賣らん、其行燈に、
魚の胡麻揚と書すは何と
やん物遠く、誤解し、
しく、先生を、
と云ひければ、亡兄打
笑み、足下は、今日、
人なり、ふらふら、
へ、賣始る、
てん、即ち、

「青」のてがらに
大木 信夫
聖職に就き愛されし愛馬よ
今朝はしんみり 腕のな
今夜袂別なくんちやな
かて
今夜袂別なくんちやな
かて
今夜袂別なくんちやな
かて

急に、お樂が顔を振り向
て、真面目な顔で呼んだ。
「さよ、の三五郎、い
よ名のこの男、何の金
眼を光らせて
「へえ」
見ると、女は、余りに身を
起して傍らに倒れた全裸
肩にかけてゐる。
「お前、恥かしくはないの
か？」
「お前、恥かしくはないの
か？」
「お前、恥かしくはないの
か？」

井坂醫院 産婦人科 電話五五九
原口のラジオ 故障の起らぬ 電話二六三番

吉田眼科醫院 醫學士 吉田久雄 電話六八番

泉屋菓子店 電話六六八

根本産科醫院 電話三四番

御婚禮御着附 水野化粧院 電話五三五番

大和田醫院 電話一七〇番

新車のお知らせ 三七年型フォード

阿康藥局 電話四四番

北川外科 電話四六四番

高島屋 電話三八六番

大和田醫院 電話一七〇番

